

「平山ブルー」で心癒やして 若狭たかハマエルどらんどで版画展

戦後美術史の第一人者の日本画家平山郁夫さんの版画展が二十日まで、高浜町青戸の若狭たかハマエルどらんどで開かれている。ほるぶエアーアンドアイの巡回展示販売の一環。収益の一部は「東日本大震災子ども支援募金」に充てられる。平山さんの原画をもとに



㊦スタッフから巧芸画の説明を受ける来場者 ㊧「平山ブルー」の顔料に使用されるラピスラズリと呼ばれる鉱物=いずれも高浜町青戸の若狭たかハマエルどらんどで

つくられた巧芸画(版画に手彩色を加えた作品)と版画を約四十五点展示。平和を願い、日本文化の源流を



求めシルクロードを取材した平山さん。代表作「寧楽の幾望」「パルミラ遺跡を行く・夜」にはラピスラズリと呼ばれる鉱物をもとにした青色の顔料が用いられている。展示品でも同じ顔料を使用し、透明感の中にも深みを感じられる「平山ブルー」を表現した。

そのほか、「今年の漢字」で有名な清水寺の森清範貫主の書や平山さんと同時代に活躍した画家東山魁夷らの版画三十五点も併せて並べている。

展示は二〇一五年六月から始まり、全国約百二十カ所を回ってきた。ほるぶエアーアンドアイの代表取締役市原清人さん(左)は「平山ブルーの青の世界で心を癒やす場になれば」と来場を呼び掛ける。(相原豪)